

# 香川大学公開講座「讃岐ジオガイド養成講座」活動報告

長谷川 修 一  
鶴 田 聖 子

## 1. はじめに

ジオパークとは大地と人間とのかかわりをテーマとした地域まるごとの公園で、2018年1月現在日本では8ヶ所のユネスコ世界ジオパークと、43ヶ所の日本ジオパークが認定されている<sup>1)</sup>。四国では、室戸ユネスコ世界ジオパーク、四国西予ジオパーク、また瀬戸内海には大分県におおいた姫島ジオパークがあるものの、瀬戸内を世界に発信するジオパークはまだ認定されていない。日本ジオパークに認定されるためには、新規認定審査のチェック項目であるジオパークの名称と全体のテーマ、ジオサイトと保全、教育・研究活動、管理組織・運営体制の他に地域の持続的な発展とジオツーリズム・ガイド養成などの強化が必須である<sup>2)</sup>。

筆者は、香川県全域をジオパークの対象地域とする讃岐ジオパーク構想を提唱（長谷川ほか、2013）<sup>3)</sup>している。香川県は、瀬戸内火山活動によって形成された美しい里山の火山岩類を利用した多様な石の文化をテーマとした、世界に類のない石と文化のジオパークになると期待される。讃岐ジオパーク構想は、母なる大地によって育まれた讃岐平野と備讃瀬戸の自然・歴史・文化を活かした地域の持続的な発展をめざしている。

筆者は讃岐ジオパーク構想の推進を目的に、2010年から香川大学公開講座「讃岐ジオサイト探訪」を開講し、香川県内の地形・地質と石の文化の魅力を発掘して、讃岐ジオパーク構想に必要なジオサイト（地質名所）の資料を作成するとともに同志の輪を広げる活動を続けている（表1）。その成果は、2013年3月刊行の香川大学生涯学習研究センター研究報告別冊「讃岐ジオサイト探訪」としてとりまとめている（長谷川・鶴田、2013）<sup>4)</sup>。また2014年度、2015年度には、ジオガイド養成の第一歩として今まで訪れたジオサイトの地形・地質に自然・歴史・文化などを加えて深く学習する「讃岐ジオサイト探求」の講座を開講した。更に2016年度からは「讃岐ジオガイド養成講座」を開始し、ジオパークの活動にかかせないジオガイドを養成すると共に、教育のためのガイド付きジオツアーについて受講生と研修を重ねている。

本稿では、「讃岐ジオサイト探訪」活動報告（長谷川・鶴田、2014）<sup>5)</sup>、「讃岐ジオサイト探求」活動報告（長谷川・鶴田、2017）<sup>6)</sup>の続報として、2016年度、2017年度の「讃岐ジオガイド養成講座」の活動を報告する。

## 2. 讃岐ジオガイド養成講座のねらい

ジオガイドは目に見える地形や地層・地質が、地球の歴史や生態系の変化あるいは人間の文化などどのように関わってきたかを、特定のテーマに沿ったストーリー（ジオストーリー）として伝えることが必要である（小池・菊池、2016）<sup>7)</sup>。本講座では特定のテーマを設け、ジオストーリーを考えることに充填を置いて研修を行った。

「讃岐ジオガイド養成講座」は、香川県内の地形・地質に関する名所（ジオサイト）のガイドを養成す

表1 香川大学公開講座「讃岐ジオサイト」探訪・探求・養成講座の軌跡

讃岐ジオサイト探訪			ジオサイト探求	ジオガイド	
月日	コース	見どころ			
平成22年度	5月16日	ガイドダンス、五剣山と庵治石	石の民俗資料館、八栗寺磨崖仏、崩壊転石、庵治丁場	H26.9.14	
	6月20日	屋島の名跡	雪ノ庭、壘石、屋島洞窟、屋島の黒石	H26.5.11	H28.10.9
	7月18日	雨滝自然科学館と火山石石棺	日本最古のナマズ化石、火山	H26.7.6	H29.6.4
	8月22日	小豆島	寒霞渓、中山千枚田、大坂城跡残石公園	H26.12.7	H28.11.6
	9月19日	ガイドダンス、高松クレーターと由良石	由良石採石場、高松クレーター	H27.4.19	
	10月17日	五色台周辺地域のサヌカイト	金山のサヌカイトと楽器	H26.4.20 H26.6.15	H28.11.6
	11月21日	飯野山（讃岐富士）と丸亀平野	飯野山、扇状地、活断層	H26.10.12	H29.5.14
	12月19日	弥谷寺と天霧石	宗吉瓦、弥谷寺の磨崖仏、天霧城址	H27.6.14	
	1月23日	ガイドブック発表会（香川大学生涯学習教育研究センター）	室戸ジオパーク推進委員 会柴田伊廣氏講演会「室戸ジオパークの取り組み」		
平成23年度	4月24日	高松市峰山と栗林公園	峰山、栗林公園		H28.9.4
	5月22日	豊島石と地すべりによる棚田	家浦八幡神社、檀山、唐櫃の棚田と清水	H27.5.17	
	6月26日	観音寺市有明浜と江甫草山	有明浜、江甫草山（有明富士）、七宝山	H26.11.9 H27.10.18	
	7月24日	香東川と塩江温泉	塩江温泉、花崗岩と和泉層群の不整合、中新世流紋岩と熱水作用		
	9月4日	国分寺と鷺ノ山石の石棺	鷺ノ山の丁場、石舟石棺、国分寺、サヌカイト	H27.4.19	
	10月23日	長尾断層と嶽山	長尾衝上断層露頭と最新の断層変位を示す低断層崖	H27.9.13	
	11月27日	大麻山と金毘羅神社	大麻山の讃岐層群と花崗岩との不整合、金比羅神社からの讃岐平野		H29.4.23
平成24年度	12月25日	女木島と男木島	鬼ヶ島洞窟、柱状節理、ジイの穴、タンク岩（柱状節理）		
	4月22日	ガイドダンス、勝賀山	勝賀城、山頂からの讃岐平野		
	5月27日	堤山（羽床富士）と綾川	堤山、快天山古墳、滝宮の綾川		
	6月24日	門入ダム周辺	長尾断層と大川；撓曲、2004年台風23号災害による土砂災害跡		
	7月22日	東かがわ市の海岸	ランプロファイア岩脈、花崗岩と和泉層群と不整合	H27.7.12	H29.7.9
	9月23日	満濃池と江畑断層	江畑断層、焼尾峠礫層、満濃池、和泉層群		
	10月28日	塩飽広島と青木石	青木石、立石八幡神社		
平成25年度	12月9日	善通寺五岳	香色山、筆ノ山、我拝師山		
	4月21日	ガイドダンス、女木島と高松城跡	鬼ヶ島洞窟、柱状節理、高松城跡の石垣		
	5月19日	聖通寺山と青ノ山	聖通寺山のゆるぎ岩と青ノ山古墳群の巨石群		
	6月23日	伊吹島	讃岐岩質安山岩の貫入形態、島四国		H29.9.10
	7月21日	荘内半島	紫雲山、蔦島、丸山島	H26.11.9	
	9月8日	女体山と護摩山	大窪寺、女体山、護摩山		
	11月3日	高見島	竜王社の火山角礫岩と安山岩の石垣		
	12月8日	城山・郷師山	城山と金山のサヌカイト、郷師山の凝灰角礫岩石窟仏	H26.4.20 H26.6.15	
平成26、27年度	1月12日	直島	直島八幡神社、本村の石垣、地中美術館ほか		
	（「讃岐ジオサイト探求」開講のため「讃岐ジオサイト探方」はなし）			H27.11.5 丸亀城本島	
平成28年度				H27.12.6 小豆島土庄町（皇踏山）	
	4月17日	ガイドダンス、高鉢山	高鉢山、風穴、椎尾八幡神社		
	5月8日	城山・猫山・大高見峰（綾歌三山）	城山、猫山、大高見峰縦走、平成16年台風の痕跡		
	6月5日	粟島・志々島	粟島陸けい砂州・馬城八幡神社、志々島埋め墓・大楠		
平成29年度	7月10日	大野原のため池	豊稔池、井関池、大谷池、岩鍋池		
	11月5日	ガイドダンス、土器川上流	木戸の馬蹄石、天川神社、焼尾峠礫層、断層地形		
	11月12日	太麻山（土庄町・小豆島町）	閃緑岩採石場、凝灰角礫岩タフォニ、崩壊岩塊、小豆島霊場		
	12月10日	水主三山（東かがわ市）	那智山山頂の細粒花崗岩、本宮山花崗岩コアストーン、水主神社		

表2 香川大学公開講座「讃岐ジオガイド養成講座」一覧

月日	コース	テーマ	
平成28年度	9月4日	高松城下 (玉藻公園～栗林公園)	高松城の石垣が3度の南海トラフ地震で崩れなかったのはなぜか？
	10月9日	屋島	屋島はなぜ古代から近世に至る戦いの拠点になったのか？
	11月6日	サヌカイト	古代讃岐阿野郡「サヌカイトの里」金山・城山の景色
	12月4日	小豆島	小豆島は、むかし讃岐ではなかった!?
平成29年度	4月23日	こんぴらさん	なぜこんぴらさんは有名になったのか？
	5月14日	丸亀城・飯野山	なぜ丸亀城は亀山に造られたのか？
	6月4日	津田湾	なぜ津田湾に古墳群ができた？
	7月9日	海から見た東かがわ	陸から見えない崖がなぜ天然記念物になったのか？
	9月10日	伊吹島	伊吹島はなぜいりこの島になったのか？

る講座で、チームを組んで自分たちの考えた企画で実際のガイドを行うことで、大地の成り立ちと、植物・文化・歴史などから自分の住む地域の特性を再確認できる地域密着型のストーリーを組み立て、更に分かりやすく伝えることのできる人材を育成することを目標にした。

香川大学公開講座「讃岐ジオガイド養成講座」では、今までに訪れた地域（表1）のうち、受講者の居住地と関心を考慮して、高松地域から高松城下、屋島、島嶼部から小豆島、東讃から津田湾、海から見た東かがわ、中讃からサヌカイト、こんぴらさん、丸亀城・飯野山、西讃から伊吹島を選択した（表2）。

### 3. 讃岐ジオガイド養成講座（1）（2016年度）

#### 3.1 讃岐ジオガイド地点

2016年度に実施された「讃岐ジオガイド養成講座」の受講者数は25名で、同年前期に行われた「讃岐ジオサイト探訪」の受講者の39名のうち、ジオガイドに興味のある23名と新たに2名の受講者が加わった。

2016年度の「讃岐ジオガイド養成講座」は、高松城下、屋島、サヌカイト、小豆島の4地点のジオガイドサイトが選ばれた。

初日に行われたガイダンスでは、屋島、サヌカイト、小豆島のうち「ガイドをしたい場所」を選んでもらい、各班でテーマとガイドコースを考えてもらった。班長は讃岐ジオガイド養成講座の実施地域に詳しい受講者をお願いして、班をとりまとめてもらった。

(1) 高松城下 (玉藻公園～栗林公園) :

- ・テーマ：高松城の石垣が3度の南海トラフ地震で崩れなかったのはなぜか？
- ・ジオポイント：披雲閣、井戸跡、高松城の外堀、内堀、石垣、玉石、水門
- ・ガイドのポイント：

ジオガイド養成講座初日の午後からは、筆者がガイド役として謎解きガイドの手法を実践した。高松城は海水が流入する場所でありながら、内堀には囲手舎、披雲閣には真水がでる井戸があり、香東川上流部を構成する和泉層群の砂岩でできた玉石が城内でみられるなど、香東川旧河道に位置している高松城下と地盤の関係について質問を出しながら考えてもらった。街の中のコースであるため、車の往来に十分注意し、信号などで班が分かれてしまうときは次のサイトで待つなどして、団体を行動することを心がけた。



図1 高松城下周辺図 (地図は地理院地図 (maps.gsi.go.jp) を使用)

(2) 屋島

- ・テーマ：屋島はなぜ古代から近世に至る戦いの拠点になったのか？
- ・ジオポイント：獅子の霊巖、雪の庭、豊石、屋嶋城城門、遊鶴亭、談古嶺
- ・ガイドのポイント：

屋島では、メサ地形と屋島が天然の要害として注目された古代の戦さの関係をテーマに受講生がガイドを行った。ジオガイドは事前の独自のガイドブック作成、当日の班長による司会・進行、班員による質問を投げかける謎解きを実践し、後に続く講座の示準とした。

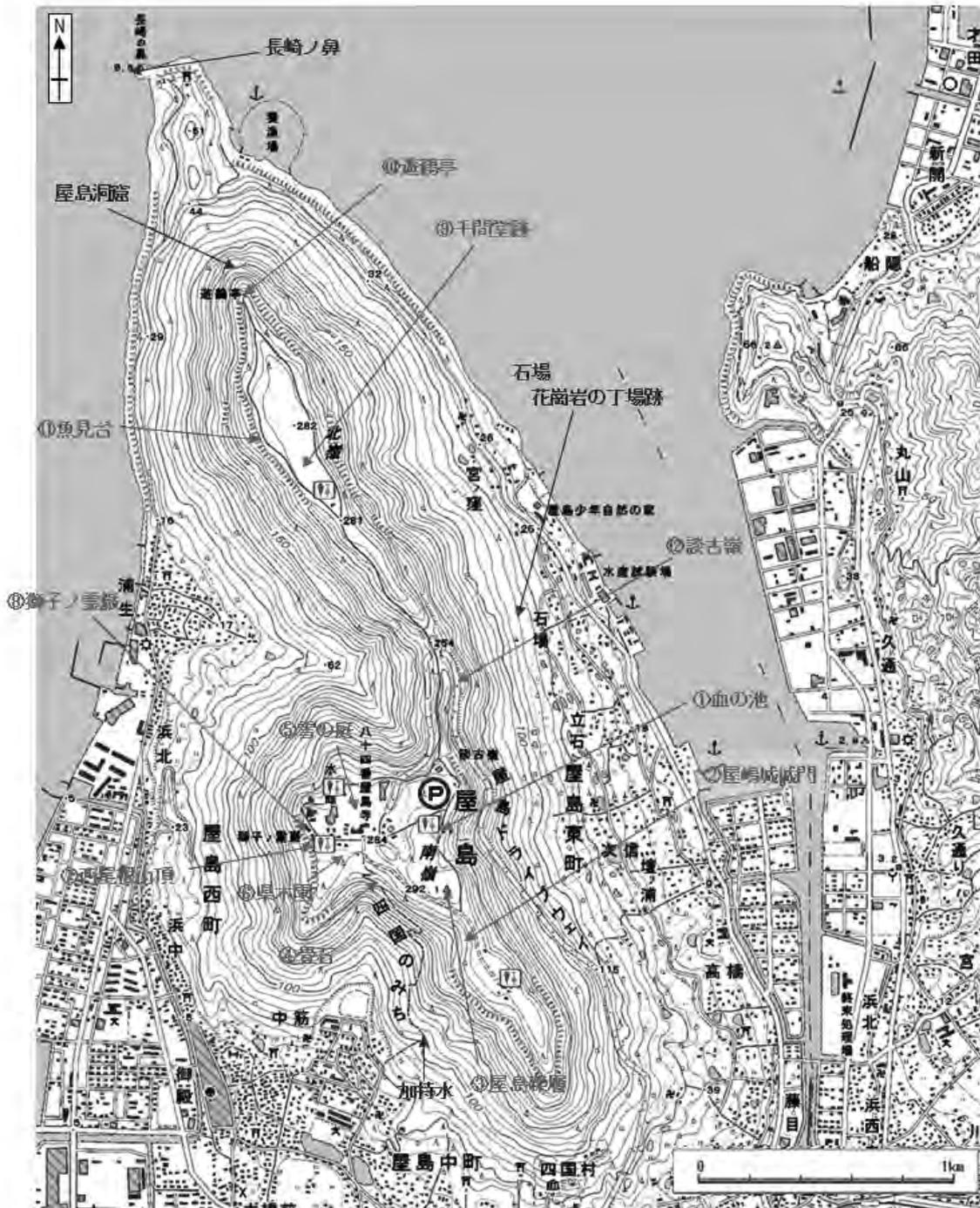


図2 屋島案内図（基図は国土地理院25000「徳島」を使用）



#### (4) 小豆島

- ・テーマ：小豆島はむかし讃岐ではなかった!?
- ・ジオポイント：権現崎マンタル直結安山岩、長浜海岸、大坂城残石記念公園、寒霞溪、島津炭鉱、中山千枚田
- ・ガイドのポイント：

小豆島ではバスを貸切り、効率的に小豆島のジオサイトをみてまわった。地質学的観点、文化的観点から、現在の小豆島が讃岐（香川県）に落ち着くまでのジオヒストリーを展開した。小豆島は大地を構成している岩石・地層（地質）が、多様な大地の形（地形）を造り出し、地形の多様性が土地利用の多様性を生み、さらに土地利用の多様性が産業と文化の多様性を育むことを理解するモデル地区と思われる。

1日に小豆島のすべてを見ることができるこのルートは、今後も小豆島ジオツアーの定番のコースとなると考えられる。ただし、皇子神社と長浜海岸は干潮時に行くべき場所であるので、行く日程に応じて順番を変更する必要がある。なお、大坂城石垣の石材を採取した丁場のジオガイドは今後の課題である。

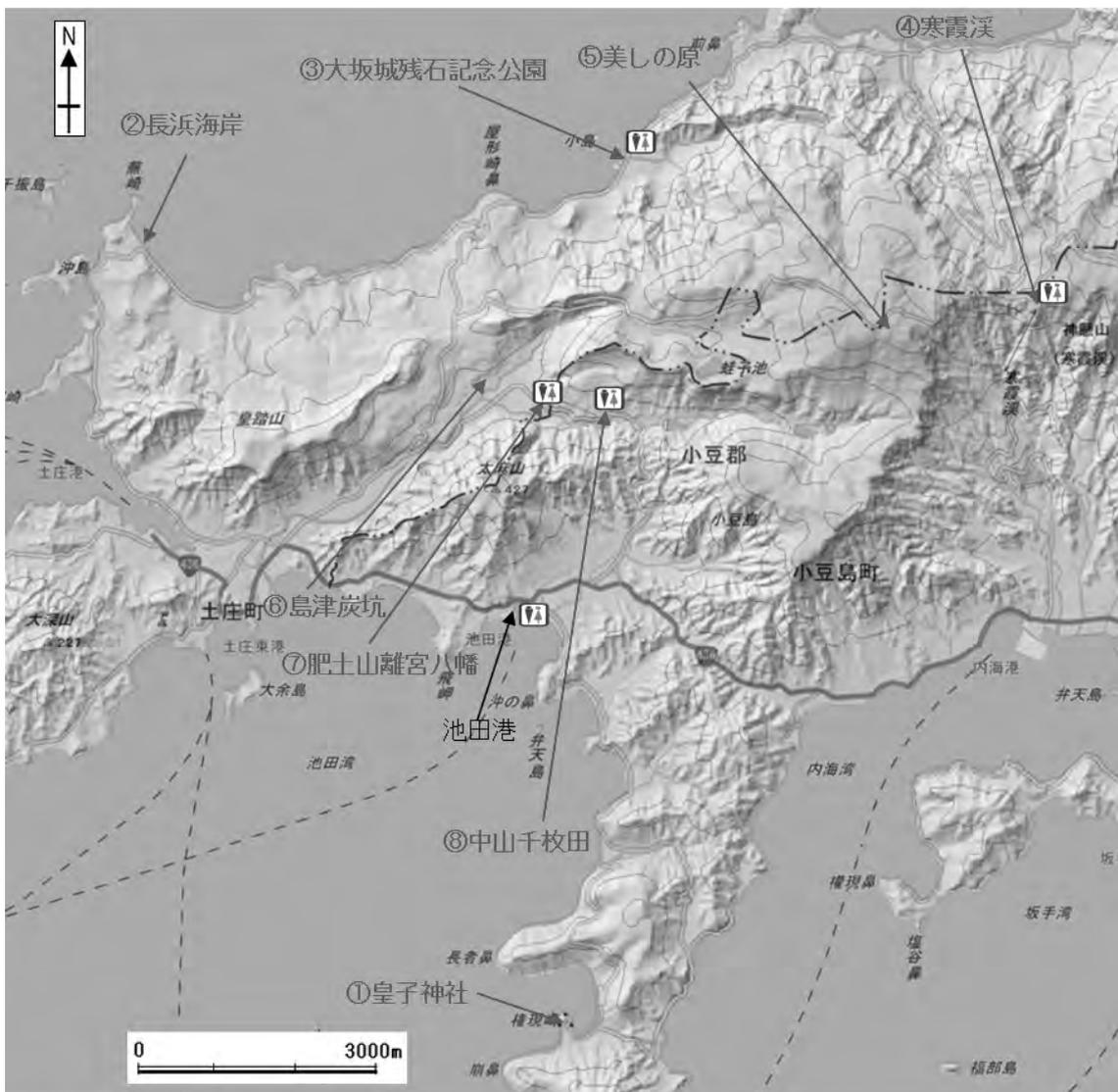


図4 小豆島案内図（基図は地理院地図（<https://maps.gsi.go.jp/>））



各班に分かれてガイダンス  
(香川大学生涯学習教育研究センター)



屋島山頂遊鶴亭から備讃瀬戸を展望 (高松市)



サヌカイト石器採石場 (坂出市)



土庄層群の説明 (土庄町)

図5 「讃岐ジオガイド養成講座(1)」見学状況

### 3.2 讃岐ジオガイド養成講座(1) アンケート結果

公開講座修了後のアンケート(図6)によると、全員が「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答し、満足しているようである。受講者主体の講座であるため「内容が難しい」と回答した受講者はおらず、「次回も積極的に参加したい」、「機会があれば参加したい」と前向きな回答となっていた。また、今回初めて実施した「讃岐ジオガイド養成講座」について、自分で勉強して作ったガイドプランは「プレッシャーを感じながらも勉強になった」や「ジオパークの見学旅行に行きたい」など志気が上がっている様子が受け取れた。

讃岐ジオガイド養成講座では当日のガイドだけでなく、受講生がガイド当日までに、打ち合わせ・下見を重ねる熱心な取り組みがみられ、受講生同士の親近感と団結力が生まれている。一方で、「自分たちのガイドはどうだったのか?」「伝えもれているところはないか?」「内容は的確であったか?」など評価を求める声が聞かれたため、ガイドのレベルを向上させていくため、2017年度からはジオガイド地点ごとに個別のアンケートを実施し、周りからの客観的な評価を反映させることにした。

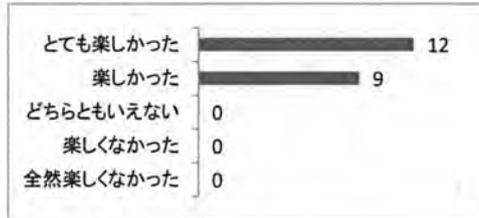
【H28年度 公開講座受講者アンケート集計結果】

讃岐ジオガイド養成講座(1)

受講生25名(回答21名) 実施日:12月4日

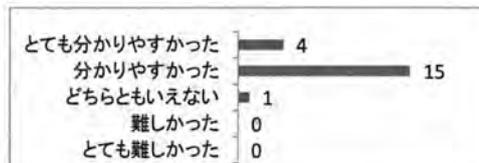
1 講座の感想をお答えください。

とても楽しかった	12
楽しかった	9
どちらともいえない	0
楽しなかった	0
全然楽しなかった	0
無回答	



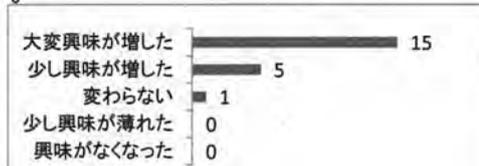
2 内容はよく理解できましたか。

とても分かりやすかった	4
分かりやすかった	15
どちらともいえない	1
難しかった	0
とても難しかった	0
無回答	1



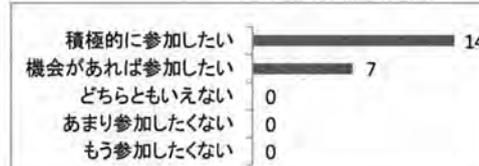
3 受講して、テーマへの興味が増えましたか。

大変興味が増した	15
少し興味が増した	5
変わらない	1
少し興味が薄れた	0
興味がなくなった	0
無回答	



4 また参加したいと思いますか。

積極的に参加したい	14
機会があれば参加したい	7
どちらともいえない	0
あまり参加したくない	0
もう参加したくない	0
無回答	



5 これから希望する講座内容や気がついたことなど、自由にお書き下さい。

- ・「お題」をつかったジオガイドは大変意義があった。さらに「お題」を深めた探訪が望まれる。(70代男性)
- ・今回はジオガイド地について、担当責任のもと各ポイントで受講生が説明をまかされ、長谷川教授のアドバイスをいただき終了しましたが、小生もそうですが他の方もそれぞれプレッシャーを感じながらも他の書物等で調べ発表したことで体験を通じて勉強になったと思います。今後も継続していただきたいと思います。(60代男性)
- ・地元で熱心に活動されている方の報告を聞きたい。なるべく歩く工程を優先してほしい。(60代)
- ・1泊2日くらいで県外の研修もしてほしい。(60代)
- ・どこかのジオパーク見学旅行があれば。(70代男性)
- ・ジオパークの研修。会員の中で趣味や専門分野の学習。(ex.山陰、室戸)
- ・ガイドをすることは自分で勉強しなければならず大変だったが少しは理解できたような気がする。
- ・ガイドは楽しかった。(70代)
- ・先進地のジオパークの研修。(60代)
- ・現地へ行くことが理解につながっているのがこれはぜひ継続してほしいと思います。(50代)
- ・ジオポイントの価値も高くすばらしい資産だと思う。多くの人にいかにも知ってもらおうか観光とジオ食も組み入れる企画が望まれる。(60代男性)
- ・リタイヤ年代の方が多いが、小学生といっしょに参加できる講座もあっても良いかと。皆さん豊富な経験と知識をもっておられるので、子供達に伝えられると良い。(50代・女性)

図6 「讃岐ジオガイド養成講座(1)」アンケート結果



(2) 丸亀城・飯野山

- ・テーマ：なぜ丸亀城は亀山に造られたのか？
- ・ジオポイント：丸亀城（丸亀城外堀、大手枡形、カブト岩、三の丸石垣）、飯野山（谷埋め堆積物、崩壊岩塊、山頂の巨石、安山岩の柱状節理）、土器川
- ・ガイドのポイント：

丸亀城が海際の亀山に立地しているのはなぜかを考えるため、火山岩頸の亀山の地質、土器川の扇状地、丸亀城の耐震性について説明した。担当したジオガイドは日頃から丸亀城のボランティアガイドをしており、通常行っている歴史や石垣の説明にジオの要素を加えたガイドとなった。

班員が少なかったため、丸亀城北東部に位置する飯野山は筆者によるガイドとなった。飯野山も丸亀城のある亀山と同様火山岩頸であることを、柱状節理と板状節理のつき方から類推してもらった。飯野山ではガイドの説明に時間を取って、休憩しながら山頂に登るように心がけたので、参加者全員が山頂まで登ることができた。また、解説用のA3の図を見せることで、より分かりやすいガイドが行えた。



図8 丸亀城案内図

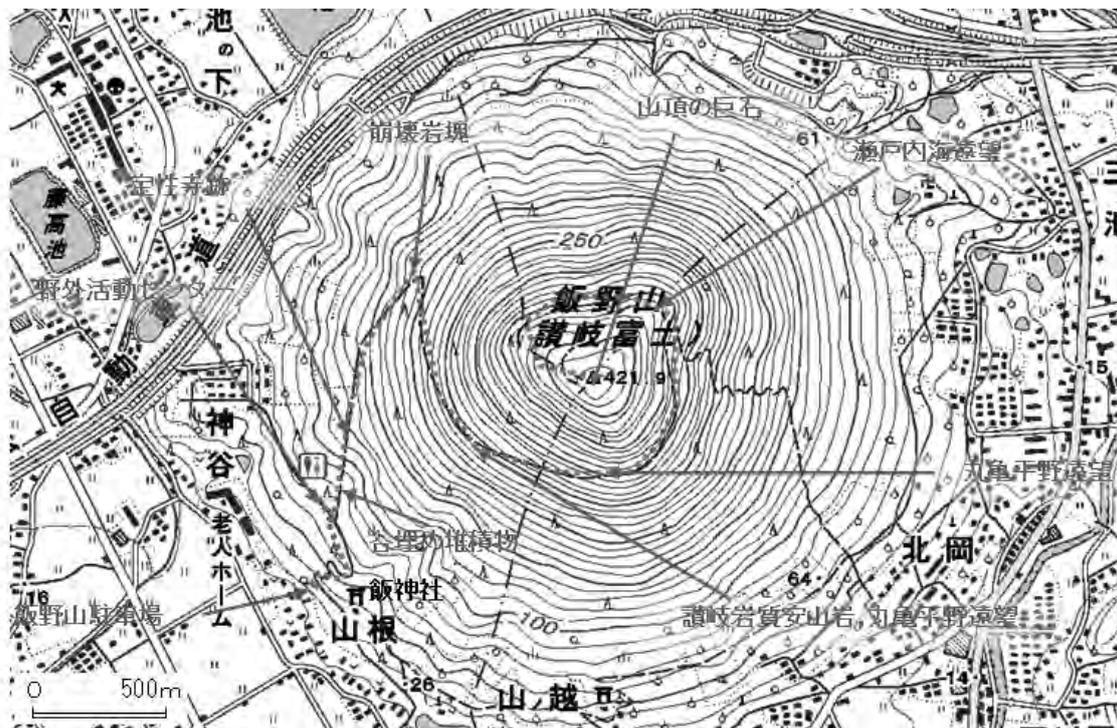


図9 飯野山案内図（基図は国土地理院25000「岡山および丸亀」を使用）

(3) 津田湾

- ・テーマ：なぜ津田湾に古墳群ができた？
- ・ジオポイント：雨滝自然科学館、西教寺奥の院の摩崖仏、津田トンネル、赤山古墳、鵜の部山古墳、うのべ山展望台、津田の松原の砂州
- ・ガイドのポイント：

2013年6月に国指定された津田湾古墳群のある津田湾がどのような立地環境であるかを理解してもらうため、雨滝山、火山の地質、砂州の形成過程を説明した。

ジオガイドが事前に雨滝山登山道の清掃や個人所有である赤山古墳見学の交渉などを行い、当日は円滑にガイドを行うことができた。比較的駐車場に困らない地域であるため車で移動するガイドコースになったが、JR津田駅発着のガイドコース開拓も今後の課題である。津田湾、雨滝山、火山が見渡せるうのべ山展望台で、古墳時代の近畿地方との交流、古墳と石棺が供給できる環境であったことなどをとりまとめたことは、視覚的にもわかりやすかった。



図10 津田湾案内図（基図は国土地理院25000「徳島」を使用）

(4) 海から見た東かがわ

- ・テーマ：陸から見えない崖がなぜ天然記念物になったのか？
- ・ジオポイント：引田不整合、女郎島、ランプロファイヤ岩脈、絹島、丸亀島、一子島、双子島、通念島
- ・ガイドのポイント：

陸から見えない崖がなぜ天然記念物になったのかをテーマに、ランプロファイヤ岩脈、絹島、丸亀島の天然記念物を船から説明した。

ガイドコースは、NPO東かがわ市ニューツーリズム協会と連携し共同で下見を行い、7月9日の本番に備えた。ガイド養成講座当日は参加者25人と多かったため、4基の船に分かれて乗り込み、1つの船からワイヤレスで音声をとばしてガイドを行った。船でのガイドの際には、海上ではジオポイントに止まったときだけの説明になるため、全体の説明を船に乗る前後で行うと更にわかりやすかった。

東かがわ観光船協会では地域の魅力発信のために観光船でのジオサイトツアーを行っているが、見学地点の学術的価値を理解し乗船数が多いときの対策を考えてもらう絶好の機会になった。

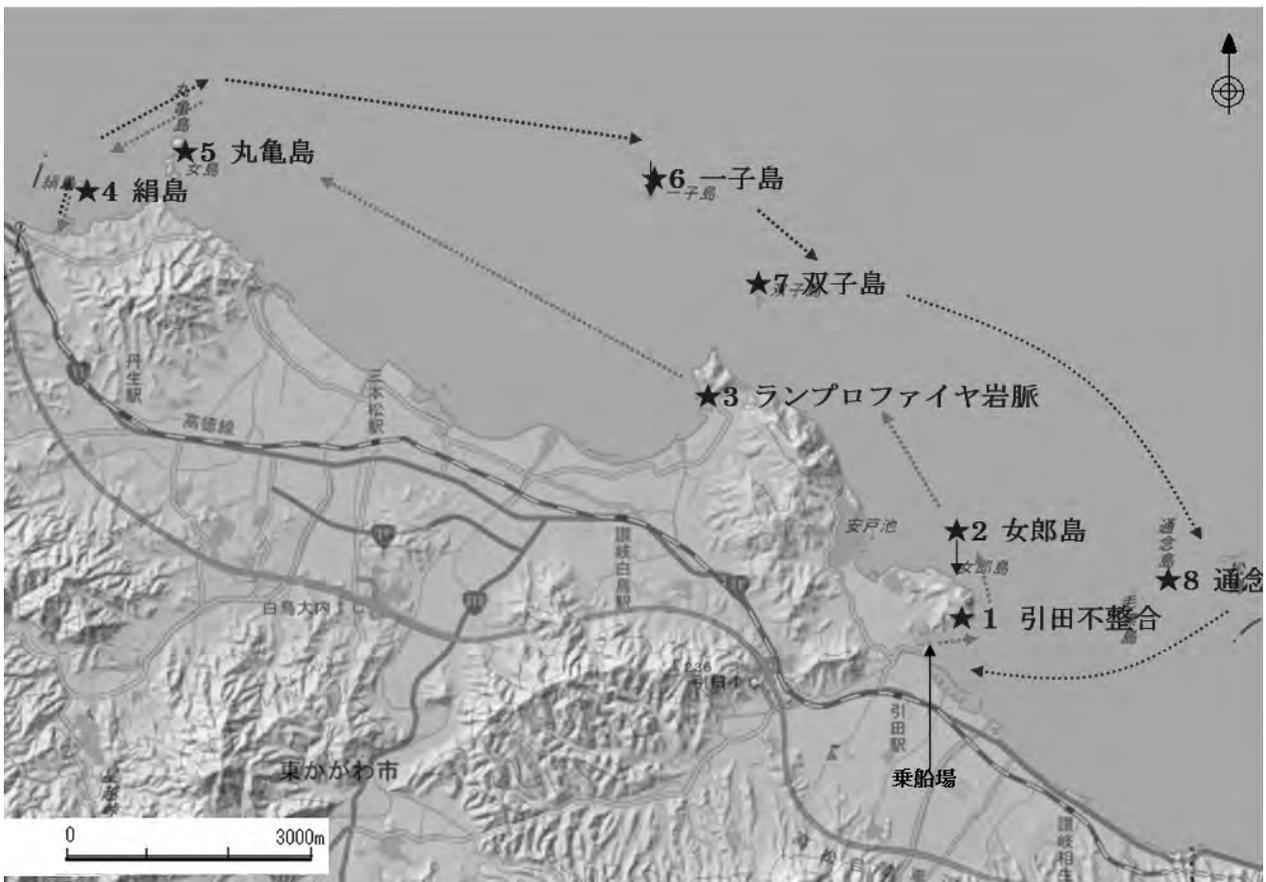


図11 海から見た東かがわ案内図（基図は地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>))

(5) 伊吹島

- ・テーマ：伊吹島はなぜいりこの島になったのか？
- ・ジオポイント：島の地形、井戸、外周クルーズ、いりこ加工工場、平井井戸、伊吹島民俗資料館
- ・ガイドのポイント：

伊吹島がなぜいりこの島になったのかをテーマに、島の位置、島の地形・地質、土地利用を説明した。伊吹島の郷土研究家の三好兼光氏の協力で、クルーズ船による海岸侵食地形など伊吹島の外周を見学することができた。現在のガイド資料である冊子「讃岐ジオサイト探訪」は伊吹島島内の資料しかないため、今後「海から見た伊吹島」の資料を作成予定である。



図12 伊吹島案内図（基図は国土地理院25000「岡山及び丸亀」を使用）



見返り坂からの象頭山（琴平町）



丸亀城からみた丸亀平野（丸亀市）



うのべ山展望台からみた津田湾（さぬき市）



天然記念物「絹島」（東かがわ市）



伊吹島のいりこ工場（観音寺市）



伊吹島の海食地形「石門」（観音寺市）

図13 「讃岐ジオガイド養成講座（2）」見学状況

4.2 讃岐ジオガイド養成講座（2）アンケート結果

公開講座修了後のアンケート（図14）によると、全員が「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答し、満足しているようである。新規受講者が加入したことで「内容が難しかった」と回答した受講者が1名いたものの、他の回答者は「次回も積極的に参加したい」、「機会があれば参加したい」と回答していた。謎解きを解明していくスタイルは「たいへん面白くてためになる」や「意見交換することができてよかった」と自らの意見を交換しながらの探索はおもしろいと感じている受講者が多かった。

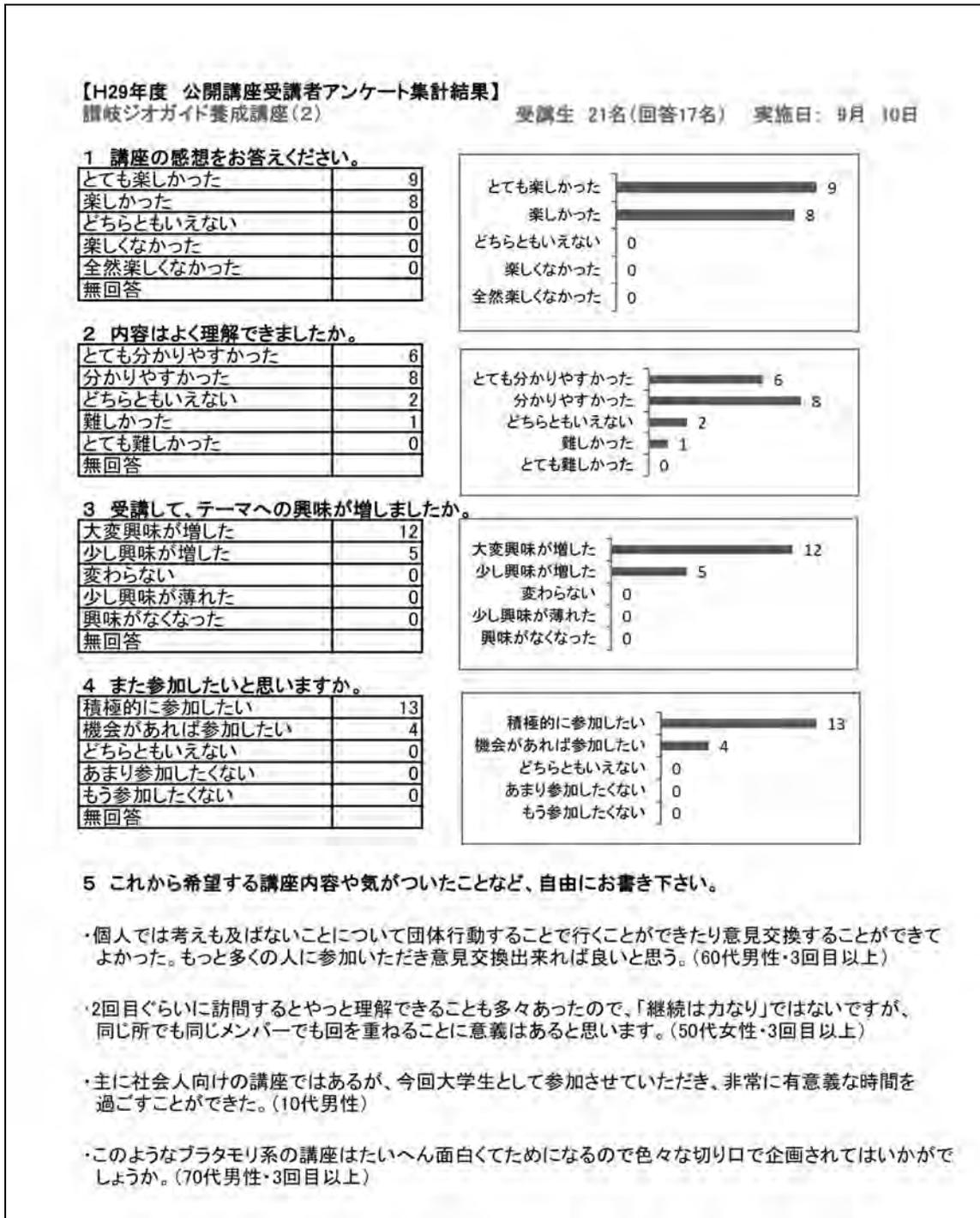


図14 「讃岐ジオガイド養成講座（2）」アンケート結果

#### 4.3 各地点個別評価アンケート結果

讃岐ジオガイド養成講座（2）では、各地点の評価と今後の改善点を知るために、一講座終了ごとにアンケート調査を実施した。

##### (1) こんぴらさん（図15）

松尾寺では普段あまり聞くことのできない住職の話を取り入れたことで、講座にメリハリが生まれ、アンケートでも「松尾寺で話を聞いたことがよかった」と回答している受講生が多かった。また、「お題のまとめが必要」、「お題と関連づけた説明・解説が必要」など今後のジオガイドに必要な改善点を見つけることができた。

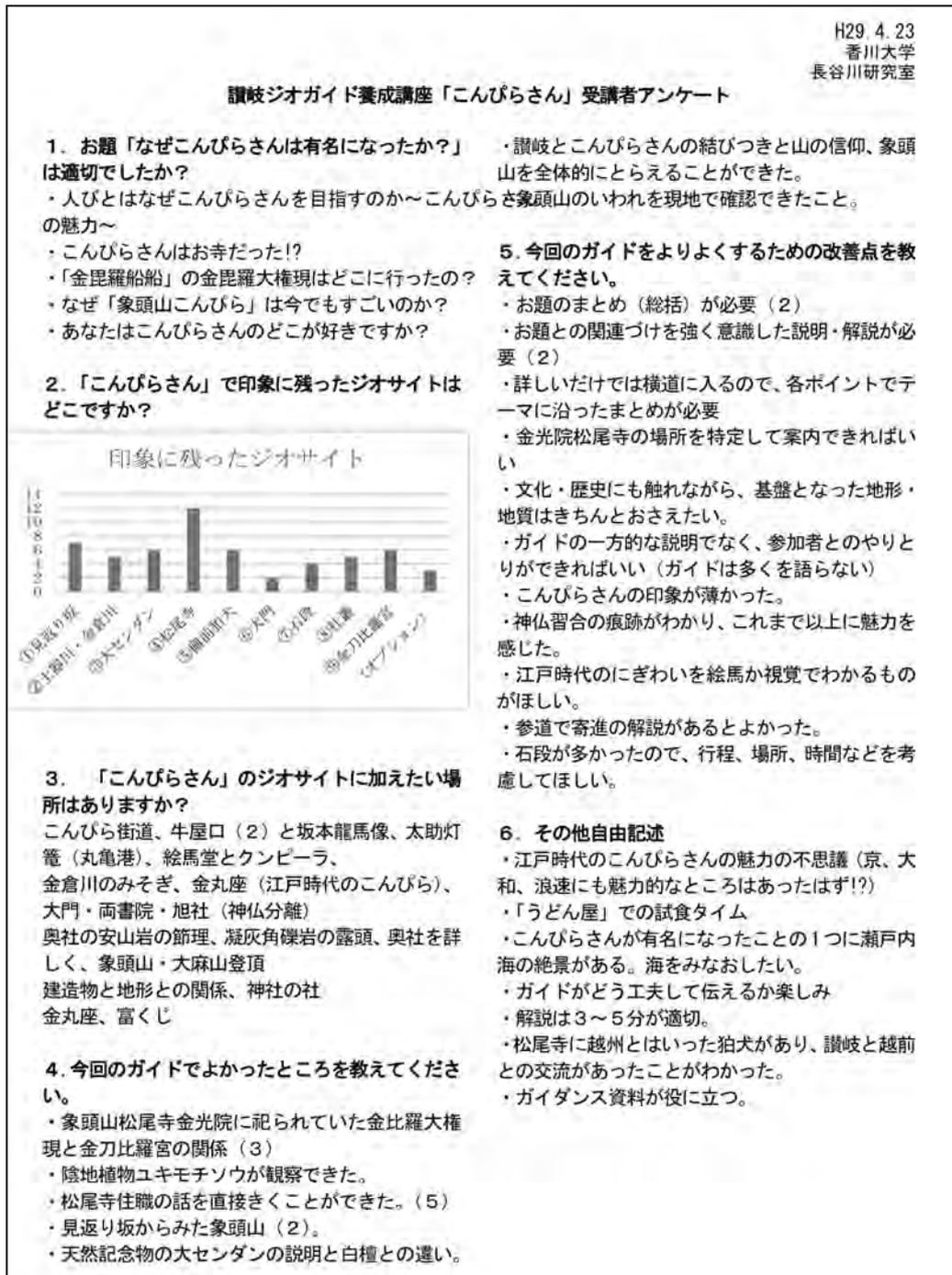


図15 讃岐ジオガイド養成講座「こんぴらさん」アンケート結果

(2) 丸亀城・飯野山 (図16)

丸亀城の担当ガイドは普段から丸亀城のガイドをしている方で、アンケートでも「ガイドがすばらしかった」と筆記されている。他の候補地よりも丸亀に城をつくった「生駒氏が城を亀山にした理由」の詳細がわかればさらによかったとされている。また、「説明用のイラストがよかった」と回答され、大きなイラストを見せながら現地の状況を解説する方法がわかりやすいことがわかった。

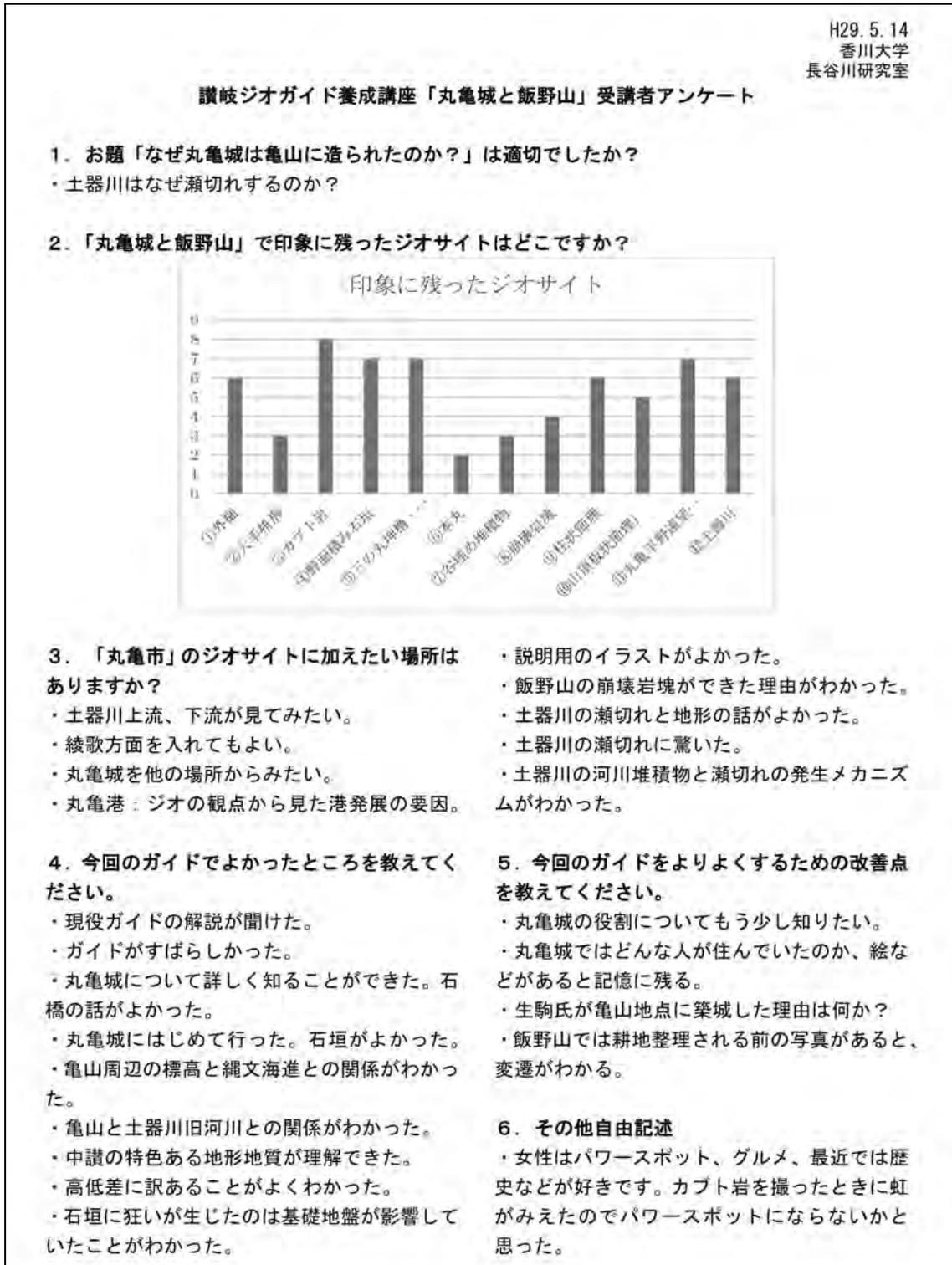


図16 讃岐ジオガイド養成講座「丸亀城と飯野山」アンケート結果

(3) 津田湾 (図17)

津田湾では班員が1つのジオポイントを任されており、「担当ガイドが全員発表してよかった」との筆記があった。また「歴史・地理が盛り込まれていて、興味深かった」と大地の成り立ちから人の営みまでをうまくまとめた講座となった。雨滝自然科学館の森繁館長の雨滝化石層やNEXCO西日本による津田トンネルのボーリング結果の説明を入れたことで、日頃は聞くことのできない工事について知ることができた。ジオツアーにおいても、施設見学・説明や協力してもらえる企業の説明を取り込むことも必要である。

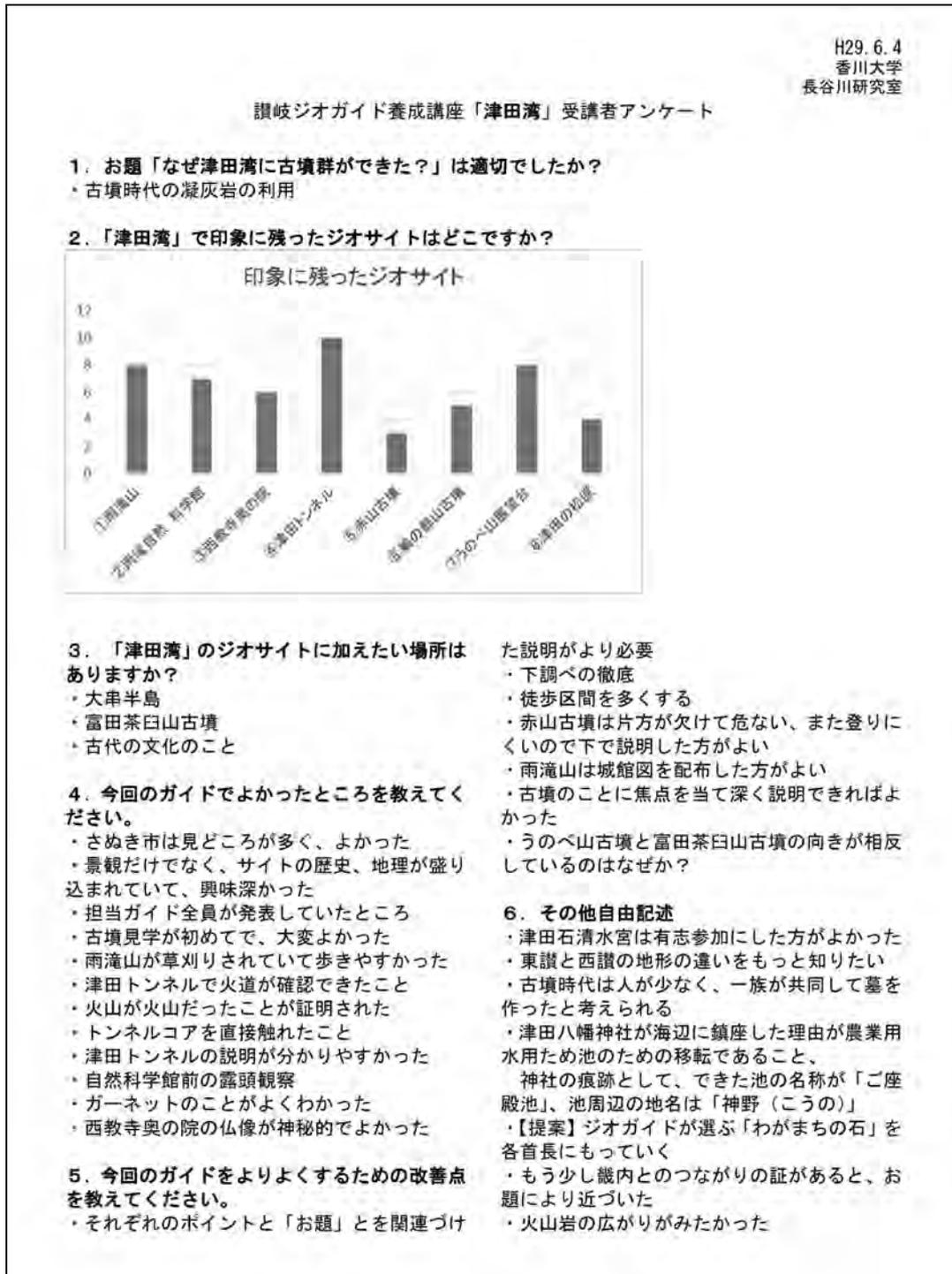


図17 讃岐ジオガイド養成講座「津田湾」アンケート結果

(4) 海から見た東かがわ (図18)

普段行くことのできない船からのアプローチをよかったことあげている受講者が多かった。また、「絹島にカヤックで行く」や「島に上陸する」「洞窟に行きたい」などのツアーを作りたいとの意見もあるなど、海から見るジオサイトが好評であることがわかる。船を4台使用したツアーであったため、「スピーカーの音が聞こえにくかった」などの改善点もあった。

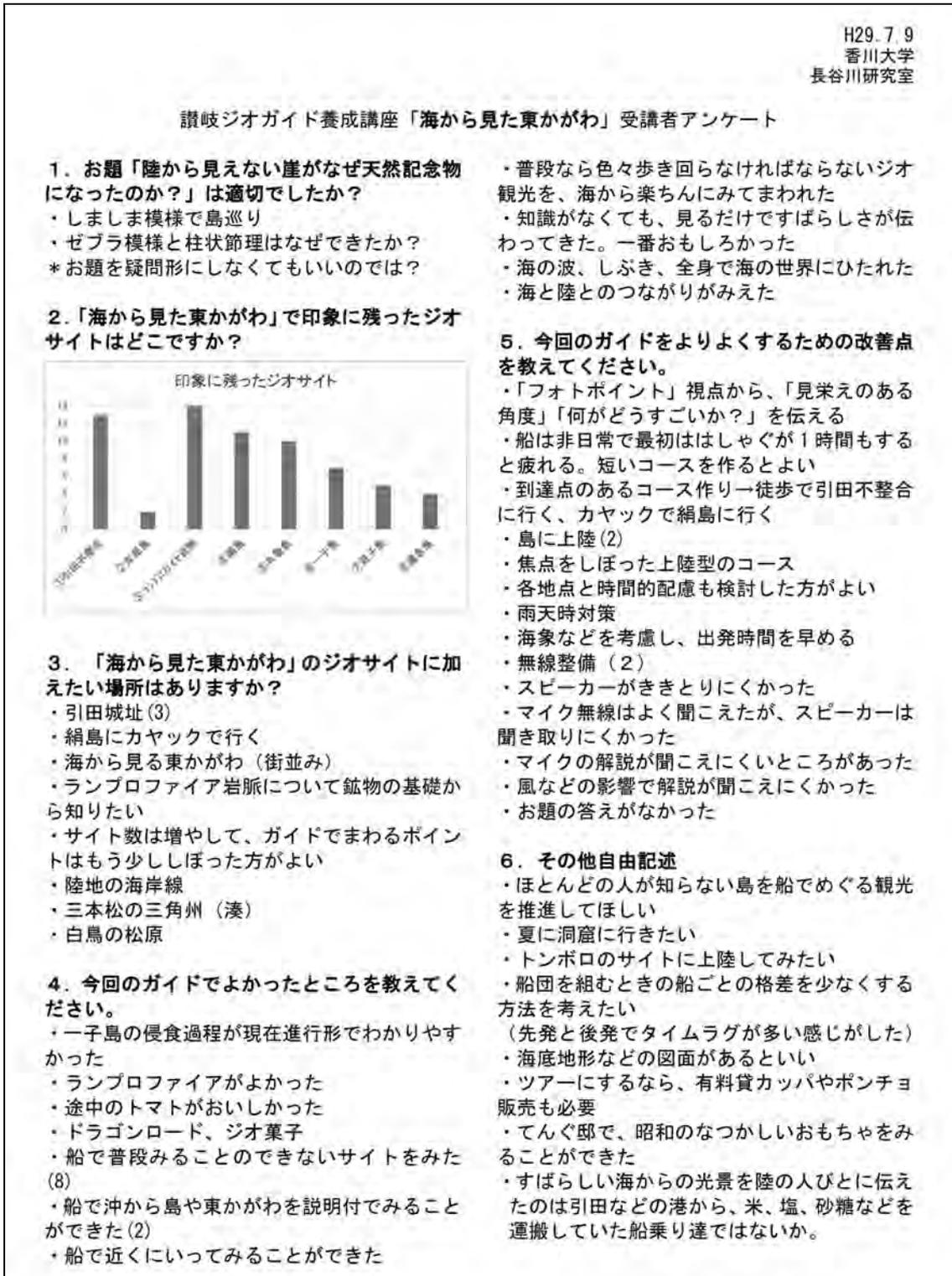


図18 讃岐ジオガイド養成講座「海から見た東かがわ」アンケート結果

(5) 伊吹島 (図19)

「島がコンパクト」「船で島1周できたこと」がよかったことあげられている。一方、「焦点を1つにあわせるとわかりやすい」などの意見があり、テーマと関連づけた内容をはっきり示すために、講座の最後にテーマとそれに繋がる謎解きのまとめの時間を設ける必要がある。

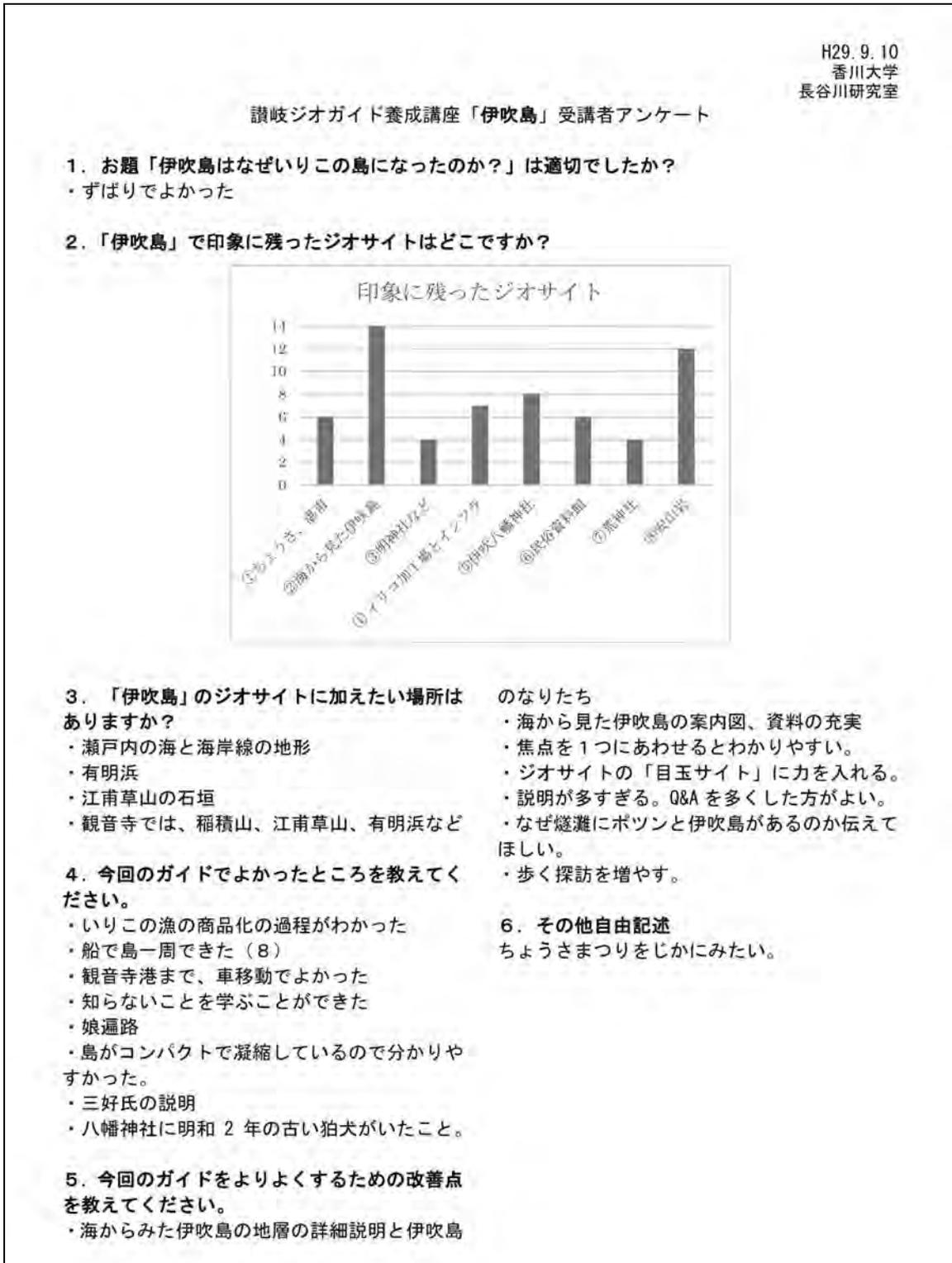


図19 讃岐ジオガイド養成講座「伊吹島」アンケート結果

## 5. おわりに

平成22年度～平成25年度の4年間に実施した香川大学公開講座「讃岐ジオサイト探訪」では、受講者と共に香川県内のジオサイトの魅力を発見しながら、資料にまとめる基礎調査を行った。平成28年には「高松城下」、「高鉢山」、「栗島」、「大野原のため池」、平成29年には「土器川上流」、「小豆島太麻山」、「水主三山」のサイトが加わり、讃岐ジオサイトは現在37地点となっている。また、平成26年度、平成27年度に実施した香川大学公開講座「讃岐ジオサイト探求」では讃岐ジオサイトの核となる16地点を選定し、讃岐の大地の成り立ちから気候や生態系、生活・文化・産業の歴史を考察し、受講者の理解を深めた。

そして平成28年度から開始している香川大学公開講座「讃岐ジオガイド養成講座」では、大地の成り立ちから讃岐の強みと弱みを自分たちで再評価し、受講生主体で今までの知識をアウトプットしながらよりよいガイド方法について学ぶとともに、教育のためのジオガイド付きジオツアーのモデルコースを検討している。

今後、他地域の活動状況・ガイド案内の視察や植物、歴史、郷土史などの講師を招いた座学を行い、受講者のスキルアップをしていくこと、さらに、受講者同士のコミュニケーション・情報共有の場を設け、受講者の志気を向上させていくことが必要である。

### 参考文献：

- 1) 日本ジオパークネットワーク：<http://www.geopark.jp/> (2018. 1. 10閲覧)
- 2) 日本ジオパーク委員会：<http://jgc.geopark.jp/howtoapply/index.html> (2018. 1. 10閲覧)
- 3) 長谷川修一・鶴田聖子・寺林優・高木知巳・前田宗一：讃岐ジオパーク構想，日本応用地質学会中国四国支部平成25年度研究発表会論文集，19-24，2013.
- 4) 長谷川修一・鶴田聖子：香川大学公開講座「讃岐ジオサイト探訪」活動報告，香川大学生涯学習教育研究センター研究報告，第19号，2014.
- 5) 長谷川修一・鶴田聖子：香川大学生涯学習研究センター研究報告別冊「讃岐ジオサイト探訪」
- 6) 長谷川修一・鶴田聖子：香川大学公開講座「讃岐ジオサイト探求」活動報告，香川大学生涯学習教育研究センター研究報告，第22号，2017.
- 7) 小池拓矢・菊地俊夫：ジオツアー参加者の景観評価とインタープリテーションー伊豆大島ジオパークを事例にしてー，地学雑誌125 (6)，pp.857-870，2016.